

オーストラリアで輸入例による麻疹の流行

2011年2月17日 ProMED 情報(Herald Sun)



オーストラリア ビクトリア州での麻疹患者の発生を受け、保健当局は住民に麻疹ワクチンを受けているか確認するよう注意喚起しました。今年に入りこれまで6週間で患者15名が報告されています。その半数以上は海外で感染した患者です。

同州保健担当者によると、患者15名中8名が海外から帰国した際に麻疹と診断され、残りの7名がこれらの帰国者と接触したと思われます。また、生後8ヵ月から66歳までの6名が入院治療を要しました。麻疹の症状が出現した人や麻疹患者と接触したことのある人は医療機関を受診する際に、他の患者への感染拡大防止のため、受診前に電話連絡する必要があります。

麻疹は、感染力の強いウイルス感染症で、特に年齢の低い幼児や成人において重症化することがあります。肺炎やその他の深刻な合併症を引き起こされる可能性があります。

〔ProMED 調整者〕

このような海外からの輸入例による麻疹の流行は、オーストラリアでの小児期のMMR(麻疹、流行性耳下腺炎、風疹)3種混合ワクチンの接種が不完全であることを示しています。

麻疹が流行している国々へ旅行をするオーストラリア人は、自分自身や周りの人々を感染から守るために予防接種を確実に受けておくべきです。